

## シンガポールを拠点に 成長を遂げるHOYAメディカル事業部

HOYA株式会社 取締役 執行役 最高執行責任者  
浜田 宏氏



グローバルグループ経営で革新を遂げる総合光学機器メーカーのHOYA。国内初の光学ガラス専門メーカーとしての創業から70年にわたり、高度なオプティクス技術をもとに多角化をすすめ、情報通信とアイケア、さらに医療、映像等の領域で事業展開するグローバルな企業へと発展を続けています。そのなかで、白内障治療用の眼内レンズ事業を手掛けるメディカル事業部は、世界的な拡大を目指して今年4月、事業本部をシンガポールに移転しました。同社取締役 執行役 最高執行責任者の浜田 宏氏に、メディカル事業のシンガポールへの本部移転、事業展開、今後の展望について伺いました。

### 世界的な白内障治療用眼内レンズ事業の拡大

HOYAは眼鏡やコンタクトレンズなどのアイケアや内視鏡などの医療分野を含む「ライフケア」と、光学レンズ、HDD用ガラスディスク、半導体製造用マスクブランクスなどを含む「情報・通信」を事業の2本柱にしており、売上は両事業でほぼ5割ずつを占めています。従来、日本およびアジア市場に強みがあったHOYAは、2007年のPENTAX統合により欧米市場を強化し、特にライフケア分野の内視鏡事業では低侵襲な手術を可能にする高度な技術で年2ケタ成長を遂げています。

メディカル事業部の白内障治療用の眼内レンズは、国内で約30%のシェアを占めていますが、さらにアジア太平洋、アメリカ、ヨーロッパなどで積極的に事業展開を進めて新興市場で急速に伸びています。なかでも中国、インド、オーストラリアなどアジア太平洋地域の売上の伸びが著しく、今後はタイ、インドネシア、フィリピンなども有望視されており、今まで以上にグローバル経営を進め、一貫した事業運営を目指す必要があると考えています。

### グローバル化と本部移転

HOYAのグローバル経営は、創る(R&D)、造る(マニュファクチャリング)、売る(セールス&マーケティング)のすべてにおける最適化を目指しています。メディカル事業部ではまず、2003年から最先端の眼内レンズ工場をシンガポールに設立し、生産をグローバル化していました。そして今回、さらなるグローバル経営の組織最適化戦略の一環として、「創る」「造る」「売る」の意思決定を迅速化するため、事業本部をアメリカからシンガポールに移転しました。加えてシンガポールに、新しい眼内レンズR&D部門を発足させており、これまで研開発拠点であった日本との2極体制を確立させます。

HOYAメディカル事業のシンガポールへの本部移転において、経済開発庁(EDB)が、研究機関との関係構築、リクルーティング情報の提供など、きめ細かいサポートをしてくれたため、7~8ヶ月という極めて短期間で完了することができました。移転には多大なコストがかかりますが、シンガポールの税制優遇などがそれを上回るサポートとなり、強力に後押ししてくれました。

### シンガポールに拠点をもち魅力

今回のような国際事業本部移転に際して、税制、事務手続き、ビジネスに必要な情報提供など国家をあげて事業支援してもらえるシンガポールは、企業にとって本当に心強く魅力的です。また、急速に成長するアジアの中心にあるという立地も大きな利点です。さらに世界市場につながるロジスティクス、日本とのタイムゾーンという優位性を考慮すると、アジア市場開拓のセンターとしてベストだと思います。

グローバル企業としては、「人材獲得戦争(war for talent)」のなかで世界中から優秀な人員をリクルーティングすることがとても重要ですが、その点でシンガポールは非常に有利です。海外駐在員にとってシンガポールは最も住みやすい都市として知られています。コスモポリタンで、世界の主要都市との直行便が多く、英語が通じ、町がきれいで、安全で生活水準が高い。食事はアジアからヨーロッパまで幅広く美味しい、さらには、所得税が低い。優秀なアジア人、日本人はもちろん世界の人材が、「シンガポールだったら行く」と言ってくれます。

国際会議が実施できる施設やインフラが整備されている点も大きな魅力です。私たちも今後は、世界中の医療関係者を会議にお呼びして、メディカル事業本部の中枢を見てもらい、ファンになってもらいたいと思っています。

### 次なる一歩へ

シンガポールへの事業本部移転は完了したばかりですが、現在の工場は既にフルキャパシティのため第二工場建設を検討しています。いずれ新工場とR&Dセンターを備えたファシリティが必要となる可能性があり、事業のインフラ環境、事業支援、人材を備えたシンガポールを当然第一候補と考えています。

シンガポールは時代の変遷、産業の変遷があるなかで常に最先端のビジネスと人を世界から集めてきました。現在も世界中から多数の最先端企業がシンガポールに集まってきています。限られた国土のなかで人材の需要過多、人手不足とならないよう、優秀な人をきちんと確保しつづけるための支援を、EDBに引き続きお願いしたいと思います。